

鎌倉市

公共施設の再編について

鎌倉市では、現在、公共施設の老朽化が進み、今後集中して必要となる施設の建て替えや改修などに係る多額の費用確保が課題となっています。
今ある公共施設を残す、さらに充実させるのではなく、機能を維持していくために複合化や集約化などの「公共施設の再編」に向けた取組を進めています。
市民の皆さま一人ひとりが課題について考え、「世界に誇れる持続可能なまち鎌倉」という財産を子どもたちに残していきたいと思います。

「由比ガ浜こどもセンター」複合化の事例

- 4つの施設を複合化
(材木座保育園、稲瀬川保育園、子育て支援センター、障害児通所支援施設)
 - 津波避難機能も備えた施設として整備しました。
- 【事業概要】
● 平成29年度（2017年度）開設



地域の子育てを
広くサポートする
施設です



「市営住宅」集約化の事例

- 6つの市営住宅を1か所に集約化（A～E棟の全5棟）
(深沢住宅、笛田住宅、梶原東住宅、植木住宅、同本住宅)
- 民間事業者のノウハウを活用して、整備を進めています。

- 【事業概要】
- 令和3年度（2021年度）事業契約
 - 令和6年度（2024年度）
 - 令和6年度としてA棟のみ供用
第1期事業としてA棟のみ供用
開始予定



こんな取組を
進めています



※整備イメージ

公共施設を取り巻く現状・課題

課題1：公共施設の老朽化

昭和の高度経済成長や人口増加に合わせて建設してきた公共施設の老朽化が進み、築30年以上の公共施設が約75%を占め、建て替えや改修が必要な状況となっています。

今後、建て替えや改修を計画的に進めたい。これまでに以上に老朽化が進行し、公共施設の維持が困難となります。

課題2：変化する人口

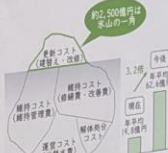
約40年後、鎌倉市の総人口は推計で13.4万人に減少、高齢者の割合は市全体の約4割となり、少子高齢化の更なる進行が予想されます。

将来、市民収入が減少していく中で、人口構成の変化による市民・利用者ニーズへの対応が困難となります。

課題3：更新などに係る多額のコスト

現在の公共施設を今と同じように建て替えや改修で更新し続けた場合、令和35年度（2053年度）までに約2,500億円（年平均62.6億円）が必要になると試算しています。また、更新コストだけでなく、維持コストなどが必要となります。

現状の3.2倍となる多額の更新コスト（62.6億円/年）を賄う必要があります。



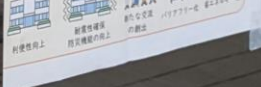
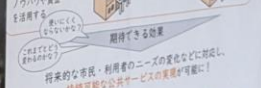
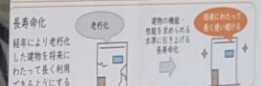
このままだと...

- ① ニーズに合わず、利用できない、利用されない施設が出てくる
- ② 建て替えや修繕が追い付かず、施設機能が低下、費用も増大化する
- ③ バリアフリーや省エネルギー化などに対応できない
- ④ 更新コストなどの増大や人口減少に伴い、市民1人当たりの費用負担が増える

課題解決に向けて

現状・課題を踏まえると、全ての公共施設を更新・維持することは困難です。そのため、「鎌倉の魅力を継承しつつ、次世代に受け継がれるまちをつくる」ということを目指し、新しい時代に合った施設を提供するよう公共施設のあり方を再考することを目指し、平成25年度（2014年度）に「鎌倉市公共施設再編計画」を策定し、令和5年度（2023年度）に改訂しました。現在、その計画に基づき再編に向けた取組を進めています。

こんな方法で再編を進めています！



- 施設更新は、単独での更新ではなく、複合的な更新（複合施設）として進めたい。
- 公共施設の更新に際しては、市民・利用者ニーズを踏まえ、持続可能なまちづくりを進めたい。

